令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書／事後評価書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	那覇市
施設名	那覇文化芸術劇場なはーと
内定額	3,537　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
人-01	なはーとワークショップシリーズ「舞台技術者ワークショップ」「舞台制作者ワークショップ」	令6月4日、6月15日、9月15日	なはーと小劇場、小スタジオ
人-02	2025年度栗山民也演劇教室	7月1日～7月6日	なはーと大スタジオ、小劇場
普-01	なはーとベイビーシアタープロジェクト	①5月24日（日） ②7月25日（金） ③8月23日（土） ④9月19日（金） ⑤10月25日（土）、11月1日（土）、11月8日（土）、11月16日（日）	①首里公民館 ②子育て支援センターすまいる ③子育て支援センターはっぴい ④子育て支援センターうえばるーむ ⑤なはーと小スタジオ
普-02	なはーとDANCE CREW	2026年1月9日～25日	なはーと小スタジオ
普-03	【戦後80年記念事業】 なはーとダイアローグ2024-2025	①7月20日（金） ②9月24日（水）③11月15日（土） ④2月6日（金）	①～③なはーと大スタジオ ④沖縄県立真和志高校

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	26	23	27
	公演事業	13	12	15
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
	人材養成事業	3	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	2
	普及啓発事業	10	9	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	3
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	265	398	388
	ホール名：大劇場　座席数：1594	141	183	187
	ホール名：小劇場　座席数：259	124	215	201
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	81,648	216,852	44,146
	公演事業	6,231	7,263	12,614
	人材養成事業	542	470	281
	普及啓発事業	74,875	209,119	31,251
	共生社会事業			
	その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	244,394	293,431	276,555
	その他　内容：記入してください			
	計	326,042	510,283	320,701
開館日数		337	336	335
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		337	336	335
施設の利用日数		337	336	335
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	13	21	6,231	3	3	1	4	0	0	2
	共催・提携公演（※2）	10	49	14,575	2	2	1	0	0	2	3
	貸館公演	249	213	244,394	20	101	20	13	5	0	90
	計	272	283	265,200							
令和6年度	主催公演（※1）	12	24	7,263	2	2	2	3	0	0	3
	共催・提携公演（※2）	4	34	8,563	1	1	0	0	0	2	0
	貸館公演	235	223	293,431	13	99	20	14	2	0	87
	計	251	281	309,257							
令和7年度	主催公演（※1）	15	28	12,614	8	2	0	2	1	0	2
	共催・提携公演（※2）	4	33	11,341	1	1	0	0	0	2	0
	貸館公演	219	219	276,555	21	110	11	11	0	0	66
	計	238	280	300,510							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書／事後評価書

②（評価・所見）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	那覇市
施設名	那覇文化芸術劇場なはーと
内定額	3,537　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書／事後評価書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価	所見

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（２）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※１）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	専門人材育成事業への応募者数	・２事業で総育成者数 90 名 ＜内訳＞ 事業１）なはーとワークショップシリーズ ①舞台技術者ワークショップ:30 名 ②舞台制作者ワークショップ：講座 20 名、シンポジウム 30 名 事業２）2025 年度栗山民也演劇教室：10 名	・２事業で総育成者数 91 名 ＜内訳＞ 事業１）なはーとワークショップシリーズ ① 舞台技術者ワークショップ：22 名 ② 舞台制作者ワークショップ：講座 21 名、シンポジウム 38 名 事業２）2025 年度栗山民也演劇教室：10 名
普及啓発事業	・全事業の参加者数	・なはーとベイビーシアタープロジェクトは総参加者 180 名、ダンスクルーは 1000 名、ダイアローグは 240 名、総参加者 1420 名を目標とする。	・なはーとベイビーシアタープロジェクトは総参加者 120 名、ダンスクルーは 1,467 名、ダイアローグは 189 名、総参加者 1,776 名。
	・参加者満足度	・アンケート回答者の 7 割以上が「とてもよかった」もしくは「よかった」と事業を評価する。	・アンケート回答者の 9 割以上が「とてもよかった」もしくは「よかった」と事業を評価した。
	・アンケートにおける肯定的なエピソードの数	・各事業で肯定的な記述式回答が 20 ずつ計 60 エピソードが集まる	・各事業で肯定的な記述式回答が計 83 エピソードが集まった

共生社会事業			

（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

人材養成事業	
自己評価	評価指標が専門人材育成事業への応募者数において、2 事業で総育成者 90 名を掲げていたところ、実績値として総育成者数 91 名となり、目標値を達成することができた。 ・舞台技術者ワークショップについては、参加者数が定員に達しなかった。沖縄県内の舞台技術者の人材育成と能力向上・資格取得を目的に継続している事業の 3 年目であったが、人材が限られているため、すでに存在する技術者向けの講座展開に限界があるという課題が明らかとなった。 今後は事業の目的を新たな人材の獲得・裾野拡大に据え、若手向けの舞台技術体験事業等に切り替えるべきではないかという気付きを得られたことは有益だった。 ・舞台制作者ワークショップについては、参加人数は目標を越え、参加者からの評価も高かった。ジャンルによって現場のあり方が異なるため、ハラスメント防止研修も団体ごとで特性に沿った形でできれば良いが、まずは重要性を知ってもらうためにオープンな形で継続していることに社会的な意義が感じられた。 防止研修を導入する例が増えることを願い、個別の問合せには事後的にも対応したい。 情報保障のシンポジウムに関しては、当事者の要望と、東京の事例等を紹介し、必要性を周知できた。参加者には事業者も多く、取り組みの輪が広がることが期待される。 ハラスメント防止や情報保障という近年重要度が増すトピックについて、無料の講座を提供している沖縄県内で唯一の公共劇場となっており、地域における劇場の役割を果たすこともできたと考えている。 ・栗山民也演劇教室は、育成者は目標値と同人数だが、応募者は多く、厳選した若手俳優を育成した。県内の若手俳優にとって極めて貴重な学びの時間になったと考えており、ここで栗山民也氏の教えを受けた俳優が今後も県内で活躍すると予想される。現代演劇に関してこのような講座を開いている公共劇場もまた、沖縄県内には他になく、地域における担い手育成の役割を果たすことができたと考える。 なはーとでは、これまでの栗山民也演劇教室の参加者を中心とした、栗山民也演出による新作公演を検討しており、今後の展開とつながる意味でも有益なワークショップと成果公演となった。
所見	○なはーとワークショップシリーズ「舞台技術者ワークショップ」「舞台制作者ワークショップ」（人-01）は、県内に不足している舞台技術者及び制作者・プロデューサーを養成するため、2023 年度から継続開催している事業である。技術者ワークショップは劇場の舞台技術専門職員が企画し、技術者の専門教育機関のない沖縄県では法令改正に伴う資格取得や特別教育の受講が難しいという課題を解決するため、vol.3「足場の組立て等作業従事者特別教育」を実施した。また制作者ワークショップでは、vol.3「作品創作におけるハラスメント防止講習会」と vol.4 シンポジウム「公演における理想の情報保障を考える（聞こえない聞こえにくい方にむけて）」を開催した。いずれも時機を捉えた重要なテーマである。 ○栗山民也演劇教室（人-02）は 2004 年から沖縄県内で断続的に行われていた同事業を、2023 年度からなはーとの主催事業として開催しているもので、6 日間のワークショップでリーディング公演までを行う集中プログラムである。高校生から 20～30 歳代の若手演劇経験者 10 名を対象に、相当の経費をかけて無料開催しているが、繰り返しの参加は認めず、俳優を志す若者に対して専門教育の機会を公平に提供している。令和 8 年度には沖縄出身の劇作家・兼島拓也の書下ろし戯曲を栗山民也が演出する新作公演が計画され、県内在住（出身）の俳優が起用される見込みであり、本事業の成果の一つあるいは集大成と言えるだろう。 ○両事業ともに地域人材の活動状況を把握し、専門教育を受ける機会が乏しいという課題に対応した地道な取組みである。「創造性・企画性」の評価の観点の中では高い（企画力）（制作力）が認められるが、実践を通して新たな課題も見えたようであり、適宜修正しながら継続することを期待したい。
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

普及啓発事業	
自己評価	3 つの評価指標として設定した全事業の参加者数、参加者の満足度、肯定的なエピソードの数の全てについて、設定した数値を大幅に上回る成果を得た。 ・なはーとダンスクルーは、山口情報芸術センターのプロジェクトをそのまま招聘するのではなく、県内のブランドや学校と連携し、なはーとならではの企画にしたことで、周知を広げ、地域の独自性を出すことができた。参加者数については、本事業の反響が大きく、ストリートダンスや、テクノロジーを利用したダンス映像作成＆スマホでの持ち帰りという、これまでのなはーとになかった要素が事業に入ってきたことで、なはーとを訪れたことのなかった高校生やダンス部の学生が多く訪れた。また放課後デイサービス施設にチラシを配布したことで、デイサービスの団体の来場も複数あり、子供から老人まで楽しんでいる姿が多く見られた。普段なはーとに訪れる機会の少ない層の来場に貢献でき、文化芸術の普及啓発という点で大きな成果があった。 また、沖縄県内において同種の事業を企画している公立劇場は他になく、新規性の高い取組みを実施できたと考える。 ・ベイビーシアタープロジェクトは、単独での総参加者数では目標値を下回ったものの、ワークショップを通じて一つの成果を作り上げる形式であったことから、人数が多すぎると体験の質が低下していたかもしれず、高い満足度が成果として出ており、多くの肯定的なエピソードが集まった。 ワークショップの参加者では、子どもが生まれてから初めて静かな空間で耳を澄まして音を聞いたと言う方がいた。普段家では動画やおもちゃで子供を遊ばせているが、ワークショップでは一緒になって楽しむことができたという声もあり、五感をテーマに構成したワークショップの意義を強く実感できた。参加者には保育園就園前のあかちゃんが多く、外出の経験が少ない家庭もあったが、サポート体制を万全にしたことで、安心して参加していただくことができた。全体として、劇場に足を運びづらい客層に体験を提供でき、普及啓発に関して意義があったと考える。 また、沖縄県内においてベイビーシアターに継続的に取組んでいる団体や劇場は他になく、新規性と社会包摂性のある企画を実現できていると考える。 ・なはーとダイアローグは、元小学校跡地に建つなはーとが、対話と学び合いを中心に運営していくという理念の核として、開館初年度の 2021 年度から継続している事業である。 今回は、戦後 80 年記念事業として、①沖縄の歴史の中における現在の文化芸術をテーマに文学、芸能、映画、写真、演劇の若手アーティストが話し合う回、②子育てをしながらアーティスト活動を続けることの困難を話し合う回、③那覇市長を迎えてこれからの社会において「文化的な生活」とはどのようなものかを参加者とともに話し合う回、④沖縄県立真和志高校のクリエイティブアーツコースに若手アーティスト 4 名を派遣して、高校生と 20～30 代のアーティストが作品作りや大学進学やキャリアについて話し合う回、の 4 回を実施した。テーマが文化芸術にとどまらず、街づくりや子育てなど幅広く設定したことで、多様な参加者があった。 平日昼間に開催した回では、集客数は多くはなく、なはーとダイアローグ単独での総参加者数では目標値を下回ったものの、アンケートでは多くの肯定的な回答が集まり、平日昼間だからこそ参加できた、という声もあった。また、市長を迎えた回が那覇市議会での質問にもつながって、劇場が行政の中や広く社会的に認知されることに寄与したと考えられるため、やはり普及啓発の効果をもったと考える。劇場が対話の場になるというのは当然のことのようでありながら、こうした継続的な取組みは県内外にもそう多くはなく、とりわけ、アーティストとの対話、何らかの意味でのバリアフリーの問題（今年度の子育てのことなども含む）、市長と市民が文化芸術について直接対話する場の設定、高校生と若手アーティストの対話、という 4 回構成で継続していることは、独自の企画性を示していると考える。 内容的には、戦後 80 年を過ぎて、社会的な状況が変化していく中で、何を再確認し、何を変化させながら文化芸術活動を続けていくべきかということについて、ジャンル・世代・立場を越えた議論ができたと考える。

所見	○なはーとベイビーシアタープロジェクト（普-01）では、3 歳未満の乳幼児とその家族を対象に、美術家の平良亜弥、津波博美を中心に音楽や身体表現のアーティストがワークショップを開催。スタッフのサポートでアーティストと参加者が協働を重ね、オリジナルのパフォーマンスを創作する参加型事業であった。 ○なはーと DANCE CREW（普-02）は、山口情報芸術センターによるメディアとダンスの関係を探るプロジェクト「YCAM DANCE CREW」のなはーと版として企画し、カメラやセンサーを内蔵したブースの前で体を動かすと、エフェクトで演出された映像を作成できる体験型展示やワークショップを開催した。ストリートカルチャーを好む若者と劇場との接点を作るため、動画配信プラットフォームの活用やストリートダンサーに協力を仰ぐなど工夫し、目標を大幅に上回る参加者を呼び込むことに成功した。 ○なはーとダイアローグ（普-03）は、「劇場職員と市民の対話により劇場を運営する」というなはーとの運営理念を象徴する重要な事業である。市民に開き、市民とのつながりを育むための劇場の基幹事業と言って良いだろう。毎年那覇市長が登壇し市の文化政策について参加者と語りあう回が設けられるなど、行政に市民の声を直接届ける機会にもなっており、特筆すべき取組みである。 ○各事業に明確な企画意図と独自の視点が盛り込まれ、丁寧に運営されていることが活動調査等からも確認できた。「創造性・企画性」の評価の観点（企画力）（制作力）に優れているだけでなく、（普-03）には県外からの参加もあるなど、（発信力・影響力）も認められた。
対応・追加情報（所見・意見交換を受	

共生社会事業	
自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
（評価補助シート設定なし）		

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	・連携する公民館、子育て支援センター、学校数

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
・連携する公民館、子育て支援センター、学校数	・ベイビーシアターで公民館 1、子育て支援センター3、ダンスクルーで高校 1、ダイアローグで高校 1、計 7	・ベイビーシアターで公民館 1、子育て支援センター3、ダンスクルーで高校 1、ダイアローグで高校 1、計 7

（※4）・（※5）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書／事後評価書　　那覇文化芸術劇場なはーと

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・評価指標が連携する公民館、子育て支援センター、学校数であったところ、その目標値である合計 7 を予定通りに達成できた。 ・なはーとは開館から 4 年の文化施設であり、地域の拠点としての機能はなお開発途上である。地域の関係機関や他分野の施設と今後も積極的に連係し、文化芸術分野から地域課題の解決に取り組みたい。 ・今年度の事例の中では、ベイビーシアタープロジェクトにおいて子育て支援センターにアウトリーチに赴くことで、子育て支援センターが必要とする親子への多様なメニューの一翼を担うことができた。また、なはーとダイアローグにおいて沖縄県立真和志高校に若手アーティストを派遣することで、高校生の創作やキャリアの悩みを近い世代の実践者としてアドバイスすることができ、学校のキャリア教育とは異なるアプローチを提供できたと考える。
所見	○当初掲げた目標は堅実に達成した。評価の観点（地域連携）については、事業目的に応じて適切な相手と協働していることが見て取れる。引き続き課題を捉えた事業を計画し、その解決や効果的な運営のためのパートナーシップ構築に取り組んでいただきたい。 ○なお「なはーとダイアローグ」（普-03）には、教育や国際交流、産業、福祉、観光など他分野と連携するための基盤整備（市民の理解促進と関係者との関係構築）の目的もあるとのことである。文化振興と地域振興をクロスさせ、文化拠点であり社会機関としての認知を広めていこうという戦略的な姿勢も見える。 ○また、なはーとにはカフェやレストランが併設されていないため、チケット半券で近隣飲食店の割引等が受けられる「グルっとまーい」という顧客サービスがあり、歓迎されている。 ○（児童生徒への機会提供）としては、助成対象事業の他にもミュージカル公演への学校招待や乳幼児向けコンサート、夏休みのファミリーシアター等が行われている。 ○（貸館事業）としては、なはーとは那覇市中心部の国際通りから徒歩数分という恵まれた立地にあり、大劇場（約 1600 席）と小劇場（約 260 席）を有していることから、プロモーターによる商業的な公演からアマチュアの発表会までニーズが高く、年間の約 7 割が貸館事業である。自主事業と補完し合いつつ多彩な鑑賞機会が提供され、各種会議も開催されるなど、地域の文化拠点として市民に定着しつつあるのではないか。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・アウトリーチ事業の実施数	・ベイビーシアターで３回、ダイアローグで１回、計４回	・ベイビーシアターで３回、ダイアローグで１回、計４回
・事業の核となるアーティストの男女比率	・男女１対１か、あるいは女性の方が多くなるものとする	・女性の方が多かった

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・評価指標のアウトリーチ事業の実施数について、目標値は計 4 回であったところ、予定通りに達成した。 ・もう一つの評価指標は事業の核となるアーティストの男女比率であり、目標は男女 1 対 1 か、あるいは女性の方が多くなることであったところ、女性の方が多くなり、達成できた。 ・なはーとでは、今回の補助対象事業に限らず、事業におけるジェンダーバランスには留意している。女性のアーティストとの協働を意識的に増やすことで、地域や他の文化施設、団体等へも意識の啓発を促す効果が出ていると考える。
所見	○当初掲げた目標は堅実に達成した。 ○（アクセシビリティ）においては、舞台制作者ワークショップ（人-01）で鑑賞サポートについてのシンポジウムが開催され、なはーとシンポジウム（普-03）では手話通訳が入っていた。助成対象ではないが公演事業でもヒアリングループやスマホで QR コードを読み取る字幕ガイド等が用意されており、障害者への合理的配慮が一定程度なされている。 ○（参画者の多様さ）については、地元アーティストを若手から重鎮まで積極的に起用し、特に若手～中堅層を支援していることに加え、ジェンダーバランスに留意しており、公立劇場の取り組み姿勢として高く評価したい。 ○（プログラムの多様さ）については、貸館事業がクラシック音楽やポピュラー音楽中心であることから、自主事業は演劇やダンス、美術・映像インスタレーションなど他ジャンルに振り向けている。またベイビーシアターから時間をかけたプロデュース公演の他、伝統的な沖縄芝居や琉球音楽、地元若手劇団の公演から国際的にも先鋭的と言える表現まで、市民に対して幅広いプログラムが意識的に提供されている。 ○今後は、在住・訪日外国人や経済的に困窮する児童等へのより積極的なアプローチも検討されたい。
対応・追加情報 （所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
（評価補助シートにて設定なし）		

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	
所見	
対応・追加情報（所見・意見交換を受けて）	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
【制作者ワークショップのアンケート抜粋】 ・とても分かりやすく、勉強になりました。“自他の境界”を意識した言動は、職場環境だけでなく家庭内や友人関係など幅広く気を付けたいと思いました（30 代・那覇市） ・学び直しの機会、とても助かります。相談時間もありがとうございました。（40 代・那覇市） ・私たちには関係ないと、見過ごしてきたことに多く気づくことができました。情報保障はすべての人が守られる権利があり、制作側の認識次第で必要としている方に届くなど、たくさん学びがありました。（20 代・那覇市） ・良い勉強になりました。（30 代・石垣市） ・字幕をつけること、情報保障は特別なことではなく、事業の 1 つ、演出の 1 つとして組み込む、それが標準になっても良いなと思いました。（40 代・八重瀬町） ・新しいシステムなどを知ることができて良かった。多くの人にシステムを広げてほしい。（50 代・沖縄市） 【ベイビーシアタープロジェクトのアンケート抜粋】 ・子どもが自由にたくさんの遊びをしていました。こんなに熱中していたのは驚きです。遊びの幅が広がった＆新しいアイデアをもらえて、大変有意義な時間でした。（30 代・那覇市） ・家にいるときとは違う様子が見れて、親としての発見もあり、面白かったです。人がたくさんいる場所に行くことはまだ少ないので、ベイビーにとっても親にとっても、とても刺激的でした。リフレッシュの機会にもなりました。（30 代・南城市） ・最初はみんな緊張している様子でしたが、回を重ねるごとにごちゃまぜになって楽しめて、みんなで子どもを見ている雰囲気があり、とてもよかったです。（30 代・中城村） ・家だと動画を見せたり、おもちゃで遊ばせたりする時間が多い。ここでは親子で同じ経験をしたり、一緒になって楽しんで遊ぶことができました。（20 代・那覇市） 【なはーとダイアローグのアンケート抜粋】 ・こういう企画の積み重ねで、社会のあたりまえが変わっていくと思います。よい企画に感謝です。（40 代・那覇市） ・「沖縄」「戦後 80 年」というワードを通して、文化芸術の表現が持つ力や、それをどう意識していけるかを考える良い機会になりました。（30 代・石川県） ・登壇していた那覇市長を含めて、パネラー各人の考えをじっくり聞けてとても面白かったです。文化芸術を大きな魅力の一つとして、那覇市をつくりあげてほしい。（40 代） ・とても楽しかったです。アーティストにも色々な経歴があるんだなと思いました。これからを考える材料になりました。（高校生・那覇市）

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	マンパワー不足から助成金や寄付金獲得には慎重である。	広報や集客については充実している。
目標(値)（※2）	状況を見ながら判断する。	全事業合計の参加者を定員に対して 8 割以上とする。
実績(値)	今後も状況を見ながら判断する。	目標値を達成した。
団体の自己評価	今年度の助成金事務を経験して、現在のマンパワー不足の中で継続的な助成金や寄付金獲得はやはり難しいと思われた。	全体としてはかろうじて集客できているが、今後は事業ごとの広報計画やターゲットの設定を明確にし、より意識的・計画的な広報を展開したい。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	マンパワー不足から慎重だが、地域内外でのネットワークを少しずつ構築している。	直営であるためうまくいっている。
目標(値)（※2）	沖縄県内の劇場と事業計画を共有し、広報等の共有に努める。	行政的な課題に劇場としても応えることで財源確保等に努める。
実績(値)	実現できなかった。	おおむね円滑に進んだ。
団体の自己評価	戦後80年という節目に事業の内容に力を注いだことから、それ以外の面でマンパワーが不足し、ネットワーク形成などの基盤づくりができなかった。	事業内容に対しては行政全体や首長からの評価は高い。歳入歳出の比率や、地域への波及効果をより高めていくことが課題である。
所見	○県外の劇場や芸術祭等との連携は行われている。	○引き続き、直営館の運営モデルを示していただきたい。
対応・追加情報		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	企画制作グループ統括の配置。	配置なし。
目標(値)（※2）	正職員として雇用されており、継続する。	直営のため、どのような形態が可能か検討する。
実績(値)	継続している。	引き続きどのような形態が可能かを検討する。
団体の自己評価	那覇市の正職員として雇用されていることで、企画の内容だけでなく、劇場の管理運営計画、自治体の文化芸術基本計画、議会答弁等にも関わることが可能で、総合的な調整を行うことができている。	事業費、事業収入、貸館収入、各種経費を総合的にチェックする専門性を持たないことが課題である。
所見	○行政実務への理解のある専門人材が市職員となることで、市政と一体となった劇場運営がなされている。	○市の歳入・歳出として管理されるため生じる課題と思われる。他の直営館と情報交換するのも一案ではないか。
対応・追加情報		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	企画制作専門員５名、広報１名を雇用している。	企画制作の内容的な統括と行政的な統括が役割分担されている。
目標(値)（※2）	待遇面の向上。	現状を続けながら課題に対処する。
実績(値)	次年度に向けて待遇面を改善できた。	現状を続けながら課題に対処する。
団体の自己評価	多くの事業をこなしながら、専門人材の待遇を改善できたことは大きな成果だったと考える。	お互いの役割を整理しながら、情報共有や綿密なコミュニケーションを心がけることで、行政の直営と専門的事業は両立できると考える。
所見	○非常勤職員も多いと思われるが、専門人材の待遇改善の取り組みは喫緊の課題であり、成果があったことは貴重である。	○相互に専門性と、専門性を尊重する姿勢があって両立するものと思われる。
対応・追加情報		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	専門性の高い人材が必要なため、30～40 代の雇用となっている。	文化振興課の女性管理職比率は 50%である。
目標(値)（※2）	若年層を雇用できる体制構築に努める。	ジェンダーバランスに留意する。
実績(値)	若年層を雇用することはできなかった。	引き続きジェンダーバランスに留意する。
団体の自己評価	若年層の人材育成が必要であると考える。インターンの受け入れや事業での若手とのコミュニケーションを心がけ、実践的な人材育成を目指す。	女性管理職比率に留意するとともに、どのような年齢・属性・立場・キャリアであっても声を上げやすい職場づくりを心掛けたい。
所見		○風通しの良さ、雰囲気づくりを心掛けている点に敬意を表したい。そのためにもジェンダーバランスや世代間バランス、管理職の意識が重要であろう。
対応・追加情報		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	直営のため行政の制度である。	行っている。
目標(値)（※2）	休みやすい環境の維持に努める。	継続する。
実績(値)	引き続き休みやすい環境の維持に努める。	継続する。
団体の自己評価	多様な立場の専門員が働いているが、各自の事情に応じて休みを取りやすい職場にはなっているのではないかと考える。	行政全体の指針に基づき、引き続き厳格なコンプライアンス遵守を徹底する。
所見		
対応・追加情報		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	市としての指針があり、管理職は研修を受けている。	民間事業者と必ず契約を交わしている。
目標(値)（※2）	あらゆるハラスメントの防止に努める。	適正なやりとりを経た契約に努める。
実績(値)	引き続きあらゆるハラスメントの防止に努める。	引き続き適正なやりとりを経た契約に努める。
団体の自己評価	自治体としてのハラスメント防止規定に加えて、次年度は劇場のハラスメント防止ガイドラインを設定することになり、対策をより徹底したい。	今年度は、過去の業務に関するやりとりについてフリーランスの方から抗議を受けたが、公立劇場としてできる限りの対応をしたと考えている。
所見	○特に創造現場におけるガイドライン策定に期待したい。	○2024 年 11 月にフリーランス新法が施行されており、個人への業務依頼は丁寧に進めていただきたい。
対応・追加情報		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
・那覇文化芸術劇場なはーとは今年度で開館 4 周年を迎えた。戦後 80 年という節目にあたり、ジャンルや事業形態のバランスに留意しながら多様な事業を展開し、沖縄県内外に向けて文化芸術の価値と意義を発信できたと考える。 ・その中において、補助を受けた 5 事業については、なはーとダンスクルー以外の 4 事業は継続的に取組んでいる事業であった。継続事業は劇場の基本的な姿勢を表すものであり、ベイビーシアターは社会包摂とアウトリーチを、栗山民也演劇教室は俳優育成を、技術者・制作者ワークショップはいわゆる裏方の人材育成を、なはーとダイアローグは対話を基礎とした文化芸術のあり方を打ち出しながら文化を普及・啓発・振興しようとする姿勢を示している。こうしたなはーとの核となる事業が支援に値するものと認めていただいたことは、劇場にとって大きな励みとなった。 ・他方、助成金事務は、スタートしたばかりの劇場のマンパワー不足に対してさらなる負担となり、申請の継続は難しいと判断せざるをえなかった。各地域の劇場にとって事務能力には限界があり、軽減を願う次第である。 ・劇場全体としては、意義ある自主事業を展開できている一方で、事業数が多く、一つ一つのポテンシャルを十分に展開しきれていないことや、個々の広報に時間をかけることができていないことなどが課題となっている。 ・こうした課題の解消に取り組みながら、今後も東京をはじめとする大都市圏から作品を招聘するのではなく、地域の優れたアーティストと新しい取組みを進め、地域の観客とともに楽しみ、議論し、社会的な課題に向き合う劇場でありたい。そこに県外の観客を招き入れることで、沖縄の優れたアーティストや表現を知ってもらい、沖縄の文化芸術や課題意識が県外にも広がっていく、その基点、拠点となる施設でありたいと考えている。

所見
○那覇文化芸術劇場なはーとは、1970 年に建設された那覇市民会館が老朽化で休館した後、市立久茂地小学校跡地に 2021 年 10 月にオープンした市直営の劇場である。大劇場（1600 席）、小劇場（260 席）に加え、大スタジオ、小スタジオ、4 つの練習室と展示室のある比較的大型の劇場として建設された。国際通りから徒歩数分という好立地にあり、通りから見えるガラス張りの 1 階ロビーにはいくつもの丸テーブルと椅子が置かれ、開放的な雰囲気の中で市民が思い思いに過ごしている姿が印象的な施設である。 ○なはーとのミッションは「感動を共有する文化の拠点」として、劇場の職員と市民の対話にもとづき、文化芸術の継承と発展、人びとの交流と地域活性化を図り、心豊かな市民生活の実現に資することである。また、劇場の管理運営実施計画（2018～2026 年）では、開館から 5 年目までを「土台作り」と位置づけ、子どもたちが劇場に足を運ぶ仕組みを整備すると同時に、福祉施設へのアウトリーチや子育て世代へのワークショップを実施し、さらに近隣商店街と連携するなど、劇場をまちに定着させる取組みを行うとしている。また開館 5～10 年（2026～2031 年）を「定着期」、開館 10 年以降（2031 年～）を「発展期」と位置づけ、それぞれ目標を掲げている。 ○この目標を達成するためにも、運営現場においては文化芸術の担い手としてのアーティストの存在が不可欠であるという自明の事柄を再認識し、那覇市を「アーティストのいるまち」として捉え、アーティストの創造性を地域振興や社会課題対応につなげていく、その拠点が公立劇場としてのなはーとであるというビジョンも有している。そのため、各事業の中心にはアーティストやスタッフ、協力団体の存在があり、事業目的が明確かつ企画においても意思や戦略が感じられる点が同劇場の特徴であろう。 ○なお、当補助金では 2 つの人材養成事業と 3 つの普及啓発事業を助成したが、なはーとの令和 7 年度の自主事業は 27 事業に上る（内訳は公演事業 15、人材養成事業 2、普及啓発事業 10）。助成対象外ではあるが、公演事業においては 1978 年に沖縄の作家として初の岸田國士戯曲賞を受賞した知念正真の『人類館』を、戦後 80 年特別企画として新演出で上演した。同作は国際芸術祭「あいち 2025」との共同制作であり、愛知芸術劇場でも上演され高い評価を得た。また、林立騎によるブレヒトの新翻訳『ゼチュアンの善人』を下敷きに、琉球芸能実演家・演出家の嘉数道彦による脚本・演出で「ブレヒト×沖縄芝居『花染小の美ら姉』」を 3 年がかりで上演するなど、沖縄の文化資源を生かし、時間をかけ、批評的な視点でプロデュースしている点に企画力の高さが窺えた。その他の事業については、各評価項目において記述の通りである。 ○なお、限られた人員での意欲的な自主事業および劇場運営に敬意を表する一方で、事務負担の軽減は喫緊の課題とのことであり、当振興会としても検討の余地があると思われる。引き続き、劇場と意見交換をして参りたい。

備考